

# 平成25年度 木島小学校 学校評価報告書

飯山市立木島小学校長  
学校関係者評価委員会委員長

宮澤 栄一  
小出 善久

A：十分に達成できた（肯定率：90%以上） B：おおむね達成できた（肯定率：50%以上） C：あまり達成できなかった（肯定率：10%以上） D：達成できなかった（肯定率：10%未満）

学校教育目標： <b>自ら学び 豊かな心を持ち、たくましく生きる児童が育つ学校</b>				学校関係者評価委員会の意見	
観点	具体的な取組	評価	次年度に向けての改善点	今年度の重点的な取組について	
重点活動の取組	<b>柱1「表現」確かな学力の定着と向上</b> ・課題解決的な学習過程を大切に授業の構想 ・ドリルタイムの充実と学力諸検査での検証 ・授業公開を通して学び合い、授業改善につなげる	B	・授業改善が、児童の実態に立ったより具体的なものになるよう、クリアチャレンジ問題等を活用し、児童の学習内容の定着状況や課題を明確にしたり、児童による授業評価を定期的に位置づけたりして、児童とともに創り上げる授業を目指します。 ・家庭学習のあり方について、家庭向けの資料を見直したり、家庭との連携のありかたを具体的に提案したりして、学習習慣形成の充実を図ります。 ・飯山市学力向上の三本柱を大切に、授業改善を進めます。	・3つの柱での取組とても良いと思いました。（→集中して授業をしている姿を見て感心しました。あいさつも気持ちよくしてくれました。地域との関わりを大切にいただき、ありがとうございます。） ・具体的な取組が明確に示され、その中で次年度に向けての改善点が実に解りやすく説明され、先生方のご努力の姿が見えます。 ・今回の3本柱はとても充実した内容であり、当たり前の事を当たり前の様に行うという木島小学校の先生方の努力がとても見受けられます。	
	<b>柱2「あいさつ・歌」心の響き合い</b> ・どの子にも居場所があり、存在感のある学級づくり ・自尊感情を高める支援 ・飯山養護学校との交流を通しての豊かな心の育成 ・人権教育の充実	A	・よりよい生き方を求め道徳の授業を計画的に実施し、道徳的価値の追求に努めます。また、全教育活動を通しての豊かな心の醸成に努めます。 ・個別相談の機会の充実を図ると共に、職員相互の情報交換を密にし、児童理解に努めます。 ・清掃活動に力を入れ、校舎を大切にしている心の高揚を図ります。		
	<b>柱3「運動・遊び」体力向上・地域に学ぶ</b> ・地域との関わり重視（農業体験活動、緑の少年団の活動の充実） ・全校縦割り活動の充実（姉妹学級交流・なかよし清掃・全校運動・遠足）	B	・今までの木島らしい教育の良さを生かしつつ、PTAをはじめ地域との連携を図り、地域全体で児童を育てる体制づくりを進めます。 ・全教育活動を通してキャリア教育を推進し、教科と生活科・総合的な学習の連携を図ります。 ・地域の人材活用や交流を位置づけたカリキュラムを工夫し、心身の健全な育成に努めます。		
観点	評価項目	具体的な取組	評価	次年度に向けての改善点	
確かな学力の定着を目指す授業	わかる授業づくり（基礎・基本の定着）	○長野県教育委員会よりの伝達「授業がもっとよくなる3観点」の「ねらい、めりはり、見とどけ」を意識し、授業改善に努めた。 ○校内での、国語・算数での授業研究や、互いの授業を気軽に参観し学び合う機会を持った。 ○教育課程研究協議会や飯山市学力向上学年会等、他校の授業に学び合う機会を通して、自己の授業の振り返りと改善に生かす。 ○飯山市学力向上事業に伴う、3視点「自分の考えや理由を言葉で説明できる力の育成」「授業とつながる家庭学習の習慣化」「学ぶ意欲を高める見とどけのあり方」を常に意識した授業改善に取り組んだ。 ○ドリルタイムの充実をはかる。（年度の途中から担任以外の教職員も学級に入り、児童にきめ細やかな指導を行えるようにした。） ○朝の活動に書き取りの時間を位置づけ、書く力の充実を図った。	B	・児童及び保護者の、「分かる授業」への肯定率が高く、授業に対する満足度は高いと推測できる。しかしながら、職員の自己評価では肯定率が7割前後にとどまっており、取組を改善する必要があります。そこで、 ①飯山市学力向上事業に伴う、三本柱「できた・わかったを実感し、学ぶ意欲を高める授業の構想」「事実・方法・理由を自分の言葉で説明できる力の育成」「授業とつながる家庭学習（予習・復習）の習慣化」を意識し、具体的な改善の視点を明確にして全教職員で授業改善に取り組めます。 ②ドリルの時間をはじめ、学習内容の補完のための放課後や長期休みにおける特別授業の実施を検討します。 ③クリアチャレンジ問題や単元テストを繰り返し行い、理解と定着を図ります。	<b>確かな学力の定着を目指す授業について</b> ・授業中、全員集中して取り組んでいること、先生方の進め方の熱心さに感心しました。 ・学校での授業と家庭学習のつながりを大切にし、家庭学習での基礎基本の定着、学習習慣形成が十分なされるように、具体的連携のあり方を家庭に発信し、協力してやっていける努力という部分が重要だと思います。 ・保護者アンケートの評価と比較して、職員の自己評価が低いのが気がかり。もっと自信を持って良いのではないのでしょうか。自信を持って取り組めば、児童にも良い影響を与えるものと思います。 ・どんな形であれ、学力向上に努めていただきたい。予習・復習の習慣化が出来るような授業又は宿題を充実していただきたい。
	授業でのルールづくり	○4月当初に、生活・学習オリエンテーションを実施し、授業の受け方について確認した。（特に、筆箱の中身と姿勢について指導）職員には、「木島小学校授業の受け方」を配布して徹底を図った。	B	・「木島小学校授業の受け方」について職員の共通理解を図る。また、家庭にも学校だより等で発信し、家庭学習でも同一歩調で児童に指導できるようにしていきます。	
	家庭学習との連携	○5月に、「木島小学校家庭学習の手引き」を学校だよりにて家庭配布し、家庭の理解を図った。 ○全国学力学習状況調査の結果を受け、家庭学習での取組方についてお願いした。	B	・学校の授業と家庭学習のつながりを大切にし、家庭学習での基礎基本の定着、学習習慣形成が十分になされるように、答え合わせや家庭学習のチェックなど、具体的な連携のあり方を家庭に発信し、協力していただけるようにします。 ・学校の授業と家庭学習のつながりを大切にし、家庭学習での基礎基本の定着や学習習慣形成が十分になされるように、学校と家庭の連携のありかたを提案し実施していきます。	
	学習環境の充実	○総合的な学習の時間や教科学習に「ふるさと学習」を位置づけ、計画的な実施に努めた。 ○クラブ活動や読み聞かせ等の活動で、地域・保護者の方を講師として位置づけ、ご協力いただいた。	B	・地域人材マップの整理と新たな人材の発掘をしていきます。 ・PTAと連携し、学習ボランティア導入に関わる意見交換を行っていきます。	
豊かな	基本的な生活習慣	○児童会代表委員会を中心に、「あいさつ週間」を企画。あいさつの良かった児童を表彰するなどして、啓発活動を展開した。 ○朝読書の時間に担任と一緒に読書をしたり、読み聞かせを行ったり、読書旬間をいかしたりして、読書への興味を持てるように工夫した。 ○月ごとの学校生活の目標を決め、廊下に掲示したりよびかけ活動をおこなったりして、目	B	・あいさつに関わっては、児童、肯定率が高いのに対し、保護者の肯定率が低い傾向にある。児童が学校ではあいさつをしているが、地域ではあいさつがなかなか進んでできていない状況にあると考えられます。児童会を中心としたあいさつ活動を推進すると共に、道徳や学級会活動であいさつの大切さについて考え合う機会を充実させます。 ・道徳教育の年間計画を見直し、年間計画に従い、計画的に道徳教育を行うようにして児童の情操面発達を促していきます。 ・学級だより等で、児童の良い姿を取り上げ、具体的な場面を活	<b>豊かな心の育成・安心できる学級集団づくりについて</b> ・学校にいる時間が長いので、楽しい場所であって欲しいと思います。そのためにも、やさしさ・思いやりの心を育てて欲しいと願っています。一人一人の良いところを探し、認め合う事で、自信につながると思います。

心の育成・安心できる学級集団づくり		的を持って生活できるようにした。		用した指導を心がけます。 ・師弟同行を大切に、学校職員が児童に範を示せるようにしていきます。	・ゆとり教育が大事ではないでしょうか。自然や動植物との関わり、読書、文章を書く。 ・挨拶を通し、地域との交流を深めていただきたい。
	安心できる学級・集団づくり	○学級経営案を学級PTAの折に提示し、学級運営に関わる説明を行った。 ○Q-Uを年2回実施し、結果を分析して、学級経営の振り返りと課題児童に対する具体的な支援について職員会議で共通理解を図った。 ○Q-Uについて、職員研修会を2度行い、結果の分析の仕方や生かし方について理解を深めた。 ○なかよし旬間やなかよし清掃及び姉妹学級での異年齢交流等の機会を位置づけ、児童相互の見つめ合い、関わり合いを大切にした。 ○飯山養護学校と交流会を年5～6回実施し、障害のある児童との関わりを通して、相手の立場になって考える心の育成に努めた。	A	・Q-U等を生かし、担任が学級経営を振り返ったり、結果について職員会議で全職員の共通理解を図ったりして、課題のある児童を全職員で支援していけるようにします。 ・児童理解に関わる校内研修を大切に、教員としての資質の向上を図ります。 ・児童の自己肯定感を高められるように、行事等での一人一人の役割を明確に位置づけた支援を心がけます。また、実施した内容について評価を明確に位置づけ、児童の満足感や意欲につながられるようにします。	
	教育相談	○教育相談週間を7月と12月に1週間程度位置づけ、全児童と相談する時間を確保した。 ○6年生を中心に、スクールカウンセラーとの相談の時間を設けた。 ○児童支援会議を計画的に開催し、学校・保護者・教育委員会など、関係機関で情報の共有を図ると共に、個々の児童の具体的な支援について方向づけをする事ができた。	A	・教育相談の機会を年間計画に位置づけ、必ず実施します。また、休み時間等の児童の様子や授業での様子から気になった事については、関係職員が連絡を取り合い、素早い対応がとれるようにしていきます。 ・学校の相談体制について、児童・保護者への周知を図ると共に、気軽に相談できる体制づくりを進めます。 ・校内の児童支援体制づくりと共に、外部機関との連携のありかたについて検討し、柔軟な支援が行えるように体制づくりをします。	<b>学校の教育全般について</b>  ・「継続は力なり。」が大切と思います。本年度目指してきた事を大切にされ、更なる工夫・改善を加え来年度につなげていただけたらと思います。 ・学力はもちろん大切ですが、何より命の大切さ教えて欲しいと思います。心身共に健康で学校が楽しく思える環境づくりをお願いいたします。 ・アンケート調査の結果を見させていただき、子どもたちの学力向上のために細心の努力をされている様子に頭が下がります。 ・職員アンケートの自己評価が高く、心強い。児童の抱える問題は、必ず態度に現れると思います。引き続き児童に寄り添い、微妙な変化を見逃さないよう注意深く見守っていただけたらと思います。 ・先生方の大変さはPTA会長になるまでは何も知りませんでした。ただただ頭の下がる思いです。しかしながら、教育が多様になり、仕事が増える一方だと推察しますが、これからもよろしく願います。
学校教育全般	学校環境整備	○「なかよし清掃」の機会を利用し、縦割り班での清掃を行い、高学年が低学年の指導を行ったり、関係委員会を動かしたりして、児童の力で学校環境の充実を図った。 ○環境教育係やボランティア児童による学校花壇の整備を行った。	B	・児童会活動での花壇整備や学校環境整備が進められるように、児童会支援に力を入れます。 ・校外だけでなく、校内の環境整備と、清掃活動の充実を図り進めます。 ・児童の学習した内容が分かる作品等の展示を工夫します。	<b>その他</b>  ・本年度飯山市教育委員会が中心となり開催された「教育懇談会」は学校、家庭、地域の方が木島小学校の教育課題について、意見交換できる大切な場と感じました。ぜひ、多くの方が参加され、地域をあげて木島小学校の教育を盛り上げていけるよう、参加していただくと良い。 ・不登校の子がいないと聞いて、本当に良かったと思います。また、先生方の早目の対策に感謝しています。 ・学力向上は大事な事ですが、家庭教育のあり方、私共高齢者の責任でもあると思いますが、親の教育も考えたい時期かと思っています。 ・学校行事は、児童が普段見せる顔とは異なる面が現れる有意義な機会だと思います。自分の適性や能力を見出ししやすいよう行動を促し、様々な面での働きかけを期待します。 ・規則正しい生活は全ての児童の活動の源ですが、特に各種大会に参加する児童は、大会直前の自己責任による体調管理の重要性について、精神面も含めて認識できるよう指導の機会を作っていたいただけたらと思います。
	情報提供（開かれた学校・連携）	○ホームページを月1回更新したり、学年だより、学校だより、校長だよりで、学校の様子を家庭や地域に発信するように努めた。 ○授業参観や各種行事の折に、アンケートを実施し、保護者・地域の方の意見を集約できるようにした。	B	・学年通信、学校通信、ホームページのよりタイムリーな発行、更新に努め、学校の教育活動や学校運営に関する情報提供の充実を図ります。 ・授業参観や学校行事に合わせ、アンケートを実施し、保護者・地域の方の意見を反映できるようにします。	
	満足度(学校行事)	○運動会や音楽会など、多くの学校行事をPTAと連携して推進する事ができた。		・行事において児童一人一人が主人公になれるように位置づけを工夫します。また、行事終了後の児童への評価を適切に行い、その後の教育活動、学校生活の励みとなるようにします。	
	安全確保・健康管理	○月1回もりもりタイムを位置づけ、家庭と連携し児童の健康への意識の高揚を図った。 ○昼食終了後に、全校での歯磨きの時間を位置づけたり、定期的に養護教諭によるブラッシング指導を位置づけたりして、正しい歯磨きの習慣化を図った。 ○児童の安全や健康確保のために、安全に関わる学校だよりや保健だよりを作成し、保護者への啓発と保護者との連携による指導の充実を図った。 ○緊急配信メールシステムを導入し、緊急時の家庭連絡がスムーズにできる体制づくりを進めることができた。	A	・出席確認と健康観察を確実にし、児童の体調管理に努めます。また、健康に関わる生活習慣がしっかり身につけられるように、保健便りの発行など情報提供を充実させ、保護者と連携し児童の指導に当たれるようにします。 ・学校危機管理マニュアルを充実させ、家庭や地域の実情に合ったものにしていくとともに、保護者や地域への周知徹底と情報提供に努めます。 ・緊急配信メールシステムへの全戸加入を勧め、緊急時のスムーズな対応に努めます。	

**本年度の評価を生かし、平成26年度 木島小学校は**  
 学校教育目標「自ら学び 豊かな心を持ち、たくましく生きる児童が育つ学校」をもとに、学校教育目標具現のために、来年度の重点として次の点に力を入れて取り組み、グランドデザインを作成します。

1 「かしこさ」 (知)	←自ら学び
2 「やさしさ」 (徳)	←豊かな心を持ち
3 「たくましさ」 (体)	←たくましく生きる

本年度、重点活動の取り組み(3つの柱)により、学力調査(CRT)結果が向上し、体力テストも県平均を上回りました。「あいさつ、歌」など心の教育についても大切に考えていきます。今後さらに、保護者との連携を密にしながら家庭学習の充実を図っていきます。